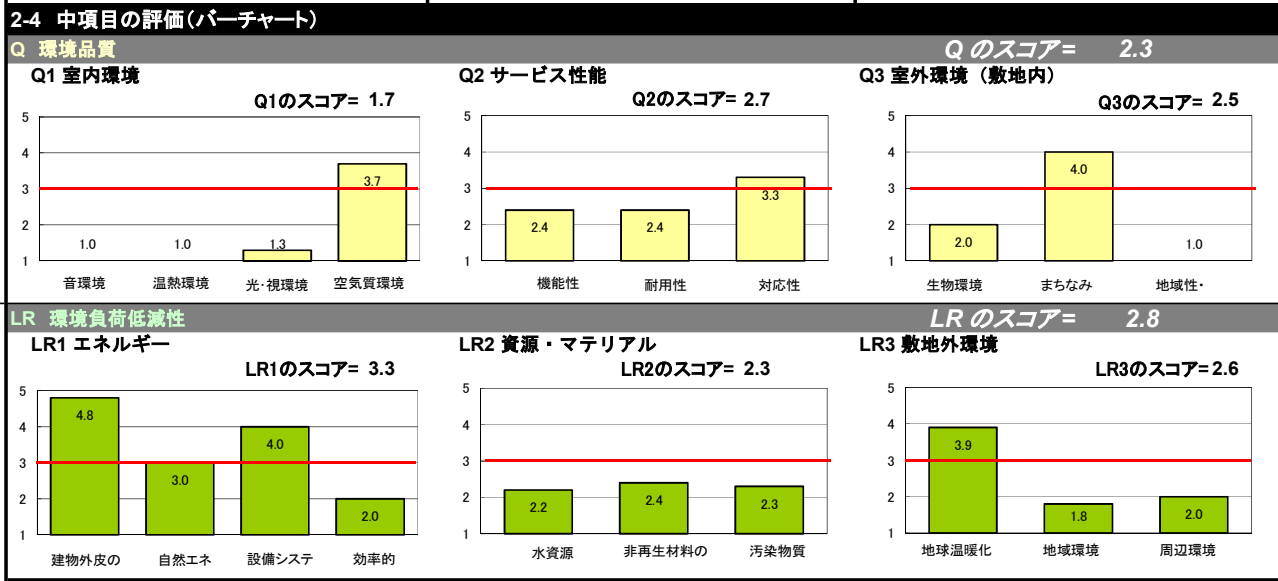
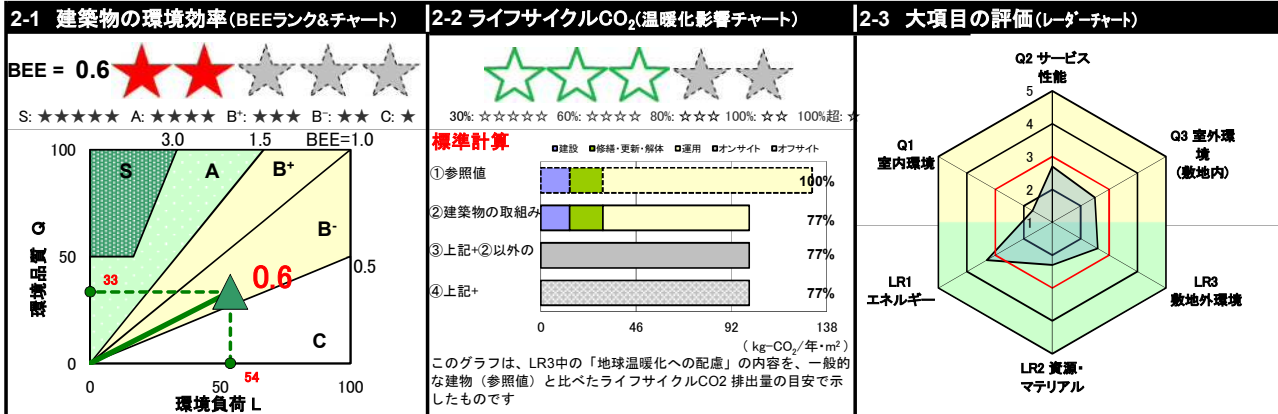




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)旭運輸新川倉庫改築工事	階数	4
建設地	札幌市北区新川5条20丁目661-18、661-7の内	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	54人
建物用途	事務所工場	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2018年5月 竣工	評価の段階	竣工段階評価
敷地面積	11,390 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2018年3月8日
建築面積	4,453 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	13,530 m <sup>2</sup>	確認日	
		確認者	



### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 中の間仕切りを排除し、動線の動きを考慮した設計を行った。	<b>A 省エネルギー</b> 外壁面は断熱性の良い複合パネルを使用した。
<b>B 省資源等</b> 特になし。	<b>C 緑化</b> 札幌市の緑化基準に基づいて配置した。
	<b>D 蓄処理</b> 敷地内に積めるだけのスペースを確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE Sapporo2016v1.0  
 (仮称)旭運輸新川倉庫改築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.2)

スコアシート		竣工段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能 <b>省エネ</b>								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備 <b>省エネ</b>								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御 <b>省エネ</b>								
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								

Q2 サービス性能				0.30	-	-	2.7
<b>1 機能性</b>				2.4	0.40		2.4
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				2.6	0.40		
1	広さ・収納性		倉庫業を営む倉庫の用途の為、一人あたりの業務スペースは十分である。	5.0	0.33		
2	高度情報通信設備対応			2.0	0.33		
3	バリアフリー計画			1.0	0.33		
<b>1.2 心理性・快適性</b>				2.6	0.30		
1	広さ感・景観 (天井高)			1.0	0.33		
2	リフレッシュスペース			3.0	0.33		
3	内装計画		倉庫として華美な内装は避け、必要な機能は明確になっており、動線に対し有効的な照明配置がされていると考える。	4.0	0.33		
<b>1.3 維持管理</b>				2.0	0.30		
1	維持管理に配慮した設計			2.0	0.50		
2	維持管理用機能の確保			2.0	0.50		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				2.4	0.30		2.4
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>				3.0	0.50		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				2.2	0.30		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		1.0	0.20		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		1.0	0.10		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20		
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		2.0	0.20		
<b>2.4 信頼性</b>				1.4	0.20		
1	空調・換気設備			1.0	0.20		
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20		
3	電気設備			1.0	0.20		
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20		
5	通信・情報設備			3.0	0.20		

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.3</b>	0.30		-	3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>5.0</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり		階高は十分である。	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		不要な間仕切りもなく、倉庫として空間の自由度は高いと考える。	5.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>2.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性			1.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性			1.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		事務所部分はOAフロアであり、設備の更新は容易であると考え。	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		スペースは十分である。	4.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		スペースは十分である。	4.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.39		-	2.5
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>緑化</b>		<b>2.0</b>	0.30		-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>緑化</b>	札幌市の景観条例及び緑化条例に配慮した計画がなされている。	<b>4.0</b>	0.40		-	4.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>1.0</b>	0.30		-	1.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	<b>雪処理</b>		<b>1.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>1.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-		-	2.8
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40		-	3.3
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		<b>省エネ</b>	モデル建物法の計算結果による。	<b>4.8</b>	0.01		-	4.8
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>省エネ</b>		<b>3.0</b>	0.12		-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		<b>省エネ</b>	[BEI][BEIm] = 0.70	<b>4.0</b>	0.62		-	4.0
<b>4 効率的運用</b>				<b>2.0</b>	0.25		-	2.0
集合住宅以外の評価				<b>2.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	<b>省エネ</b>		1.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1	モニタリング	<b>省エネ</b>			-		-	
4.2	運用管理体制	<b>省エネ</b>			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30		-	2.3
<b>1 水資源保護</b>				<b>2.2</b>	0.20		-	2.2
1.1 節水				<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>2.4</b>	0.60		-	2.4
2.1 材料使用量の削減		<b>省資源</b>		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		<b>省資源</b>		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		<b>省資源</b>		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		<b>省資源</b>		1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		<b>省資源</b>		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		<b>省資源</b>		3.0	0.20		-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				2.3	0.20		-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	1.00		-	
3	冷媒	省資源		-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30		-	2.6
1 地球温暖化への配慮		省資源	換算スコアによる。	3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮				1.8	0.33		-	1.8
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 熱化 蓄処理		1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		1.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制			3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				2.0	0.33		-	2.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-		-	
1	騒音			-	-		-	
2	振動			-	-		-	
3	悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.67		-	
1	風害の抑制			1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				-		-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.33		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.2)

1 建物概要							
建物名称	(仮称)旭運輸新川倉庫改築工事			BEE	0.6	BEEランク	B <sup>-</sup>
建物用途	事務所,工場,						
延床面積	13,530.3	㎡					

2 重点項目への取り組み				レーダーチャート
地球 温暖化 対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★		<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア20%以下 ★2=スコア20%~40%以下 ★3=スコア40%~60%以下 ★4=スコア60%~80%以下 ★5=スコア80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆		
	緑化	★★★☆☆		
	雪処理	★★★★☆		

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー ( 最高点 22.4 最低点 6.7 )				合計 14.4点 /22.4点			
Q1 温熱環境	スコア	0.2 /0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.3 /0.3		
Q1 光・視環境	スコア	0.5 /1.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.5 /2.5		
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	9.9 /12.3		
			LR1 効率的運用	スコア	2.0 /4.9		
B 省資源等 ( 最高点 24.5 最低点 7.6 )				合計 11.6点 /24.5点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.5 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.3 /9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.6 /2.9	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	0.8 /2.1		
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.9 /5.0		
			LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /4.4		
C 緑化 ( 最高点 19.2 最低点 3.8 )				合計 9.8点 /19.2点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.4 /5.9	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.5 /2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	6.3 /7.9					
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.6 /2.9					
D 雪処理 ( 最高点 3.0 最低点 0 )				合計 1.0点 /3.0点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数